



FAX COVER LETTER

財団法人

日本モンキーセンター

学芸員 赤見理恵

送信先 報道各位

送信枚数 本紙を含めて 4枚

送信日 2013年 10月 14日

動物慰霊祭(サル供養)について

真っ青に澄んだ秋空が心地よい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

さて、10月17日(木)に財団法人日本モンキーセンターは創設57周年を迎えます。毎年、創設記念日には、今まで日本モンキーセンターで亡くなったサルたちに感謝し冥福を祈る**動物慰霊祭(通称、サル供養)**を執り行っております。

今年は**新たに32種64頭が加わり、6358頭を慰霊**します。

動物慰霊祭には、園内の保安要員を交代しながら全職員が出席し、**人工哺育で育ったサルの赤ちゃんも担当スタッフとともに参列いたします**。また今年「命の学習」に取り組んでいる犬山市立羽黒南子ども未来園の**園児21名による献花**もおこないます。一般のお客様にもご参列、ご焼香をしていただけますので、一人でも多くの方に冥福を祈っていただけるよう、ご案内いただければ幸いです。

動物慰霊祭 概要

日 時 : 2013 年 10 月 17 日 (木)

11:00 より 40 分ほど

(雨天決行・テントあり)

場 所 : ビジターセンター裏 動物慰霊碑(猿塚)前

進 行 : 飼育主任 堀込亮意 (51 歳、勤続 27 年)

弔辞朗読 : 飼育技術員 根本慧 (25 歳 勤続 5 年)

読 経 : 犬山善光寺導師

参列者 : 日本モンキーセンター全スタッフ

犬山市立羽黒南子ども未来園の園児 21 名

人工哺育で育ったサルの赤ちゃん

ワオキツネザルの フィルム♂ (2013. 6. 13 生)

ワオキツネザルの ライラ♂ (2013. 6. 15 生)

ケナガクモザルの パト♂ (2013. 3. 12 生)

フサオマキザルの キアヌ♂ (2013. 3. 25 生)

フサオマキザルの カーリー♀ (2013. 5. 6 生)

シャマンの ピーチ♀ (2012. 6. 22 生)

今年亡くなったサルたち

ヤクニホンザルのチェリー

- ・ 1983年7月26日生まれ。メス。
- ・ 2013年7月21日死亡。
- ・ 死亡時29歳。
- ・ 通常の寿命をはるかに上回る30歳近くまで生きた“おばあちゃんザル”です。30歳の誕生日を目前に亡くなりました。



ワオキツネザルのチェルシー

- ・ 2002年3月6日生まれ。メス。
- ・ 2013年2月18日死亡。死亡時10歳。
- ・ 赤ちゃんのときに喧嘩のとばっちりで掌の骨を噛み砕かれ、お母さんにつかまれなくなりました。人工保育で育てられましたが、その後、最大の群れを率いるリーダーに成長。多くの皆さんを勇気づけてくれました。

悪性腫瘍を患ってからはリーダーを娘に譲りましたが、亡くなる直前まW a oランドで仲間とともに過ごしました。腫瘍と闘いながら、スタッフ手作りのチェルシー用スロープを使って群れとともに移動する姿を、多くのお客様が応援してくださいました。



ゲラダヒヒのマック

- ・ 2002年来園・オス。
- ・ 2013年2月14日死亡。死亡時年齢不明。
- ・ 日本で最後のゲラダヒヒです。11年前に九州の動物園から来園し、当時モンキーセンターにいたメスとの繁殖が期待されていました。しかし残念ながらメスは早くに死亡し、国内最後のゲラダヒヒとなりました。



財団の歴史と医学研究

財団が創設された大きな目的に、霊長類の調査研究、保護、教育普及活動、それらの支援活動などがあり、文部省所轄の研究財団として活動を開始。同時に日本で唯一の登録博物館の動物園として責務を果たしてまいりました。

昭和 30 年代、日本で猛威を奮っていたポリオ（小児まひ）のワクチン製造やその安全性検定、今ではあたりまえの三点式 ELR シートベルトの開発、白内障で視力を失った方がもう一度視力を得ることができる眼内レンズの開発、人類を最も多く死に至らしめるマラリアの予防薬開発などWHO世界保健機関をはじめ医学、薬学、人間工学などの多くの分野へサルを供給し研究支援活動を行ってまいりました。

医学用実験動物の供給は 2003 年以降、心臓移植の技術開発のための供給を最後に撤退しています。これは実験用動物を否定するものではなく、財団の方針であります。



参列するサルの赤ちゃんたち

お問い合わせ先

財団法人日本モンキーセンター

〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26

TEL : 0568-61-2327 FAX : 0568-62-6823 e-mail : info@j-monkey.jp

URL : <http://www.j-monkey.jp/>

本件担当：加藤章（園長）、高野智（主任学芸員）、江藤彩子、赤見理恵（学芸員）